

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部



令和八年一月度 入賞句一覧

投句数 五百九十七句

特選

田中 青志 選

木がらしや下校の子らの掃かれゆく

養老郡養老町 佐藤 咲楽

「掃かれゆく」という措辞が旨い。木の葉が吹かれて転げるようになる様を彷彿させる言葉として、子どもたちが生き生きとして下校していく姿が描かれているからである。今でも生きていることば、子どもは風の子、大人は火の子なのである。

しばらくは大事にされる帰省かな

滋賀県長浜市 野口 成人

毎日ごろごろしていても三日・四日はいいけれど、七日・八日となると、家族も鬱陶しくなるのは人情か。本人もだらしなげであることは否めない事実。久しぶりの旧交を温めた友人たちも、そんなには一緒に遊んでばかりいられないのも事実。ものにはすべて潮時というものが存在するようである。

銃声のこだま山野に冬木立

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

この銃声は威し銃か、狩猟のものか。いずれにしても眠れる山野を揺り起こす迫力がある。山に棲む獣、果ては人間までも叩き起こす迫力。全山を揺るがす一発である。

秀逸

着ぶくれて世渡り下手で押し通す

東京都世田谷区 関戸 信治

鴨眠る月の光に身をよせて

揖斐郡池田町 市川 香

雀一羽の重みにたわむ芒かな

不破郡垂井町 北村 廣美

熱の子のおでこ触れるや冬の月

大垣市 傍島 隆

七五三順番待ちの子は眠り

大垣市 傍島 豊子

寒中は微動もせずの池の鯉

安八郡神戸町 早津 郁男

気づかいつすれ違ひけり雪の道

香川県高松市 丸亀 葉七子

雪達磨馬尻がつつり喰ひ込ませ

岡山県岡山市 沼野大統領

何気ない日々の暮らしや根深汁

群馬県館林市 坂口いちお

黒板に白墨の跡冬休み

滋賀県大津市 近江 堇花

入選

手を合はすビルの谷間の冬の月

大垣市

福田 木綿子

煤逃げの父子の集まる理髪店

大垣市

赤塚 つねみ

冬たんぼ医者の支払い八十円

大垣市

北村 征子

うたかたの世に居ぬ子らよ彼岸花

大垣市

近藤 冨二子

リビングにポインセチアと赤ワイン

大垣市

大杉 すみゑ

要介護進む悲しさ冬の夜

養老郡養老町

浅井 幸子

記念日に合わせるやふに福寿草

大垣市

安田 むつこ

寒行の僧の衣の薄さかな

大垣市

多賀 英華

倒れ込む走者の先に襷つぎ

不破郡垂井町

傍島 法苑

人間の願いあふれて初詣

三重県いなべ市

新貝 里美

来て嬉し帰って寂し蒲団干す

大垣市

宮脇 和子

半分に減らせし賀状文字増やす

東京都江戸川区

羽住 博之

悴んだ指で小銭が取り出せず

京都府京都市

原 強

小春日や傘寿は未だ旅の途次

愛知県豊田市

城山 悠水

不意にきて枯葉持ち去る又三郎

岐阜市

辻 雅宏

選者吟

山茶花満開散ることを考えず

青 志



一般の部